

評価者	こどもみらい部長	進藤 勝
-----	----------	------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	青少年育成	施策の方針	青少年の育成・支援
目標とすべきまちの姿	子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、すべての子どもたちが健やかでのびのびと成長できる環境が整っています。また、保育施設の整備が進み、待機児童数が減少しているとともに、子どもの家(学童保育)の利用者数の増加に対応した施設の整備が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	27.0%	平成27年度	28.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方				お金の使い方				<p>＜妥当性の分析＞</p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が、平成27年度は43.5%と、選択肢の中では最も多くなっているが、次の多い回答である、お金の使い方は「足りない」、仕事の効果は「不十分」という回答が10.6%にのぼり、市民意識においては、更なる対応の期待が潜んでいることが伺われる。</p> <p>平成26年度との比較を行った場合に、「全体における位置」において、市全体の施策方針における「ちょうどよい」という回答値に大きな変化は見られないが、お金の使い方を「足りない」とする回答が微増していることから、子育て分野に対する市民意識の期待が高まっている傾向が読み取られ、これを反映した結果であると考えられる。</p>
仕事の効果	必要以上の効果	2.4%	0.3%	足りない	必要以上の効果	1.4%	0.6%	
	ちょうどよい	2.8%	44.3%	足りない	ちょうどよい	2.0%	43.5%	
	効果不十分	3.8%	3.3%	足りない	効果不十分	3.9%	10.6%	
平成26年度				平成27年度				
全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)								

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	14.2%	48.3%	5.4%	32.2%	100.0%
平成27年度	17.2%	44.5%	5.2%	33.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

子ども・若者育成プランの策定の中でも重要な取組である「支援体制の充実」を核とし、市長に答申する。青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等が連携及び協力した体制づくりの構築を図り、新たな青少年の居場所となるよう努めていく。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
こども-26	育成事業	5,501	5,245	17,438	17,511	1.5	1.5	a	B
こども-27	青少年会館管理運営事業	33,014	34,162	49,725	51,334	2.1	2.1	a	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】
 研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。(こども-28)
 キャンプ等、小学生を対象とした各事業を実施した。(こども-28)
 大人のつどいを実施した。(こども-28)
 「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の推進及び次期プランの策定をした。(こども-28)
 各中学校区を中心に市内をパトロールした。(こども-28)
 様々な年齢層の青少年を対象に、各種の講座を開催した。(こども-29)
 鎌倉青少年会館及び玉縄青少年会館の維持管理を行った。(こども-29)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成27年度取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

育成事業においては、これまでの「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の特に重要な取組を、「3つの重点目標」として、平成28年度に改訂することとした。また、施策の方向性や取り組むべき問題等について、「鎌倉市子ども・若者育成プラン推進・策定部会」や「青少年問題協議会」において検討を進めた。

また、青少年会館管理運営事業においては、地域との交流やふれあいを図り、広く地域の方々に周知を図るため、「玉縄青少年会館ミニフェスティバル」を開催し、青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、青少年の利用者を増やす事業を展開した。

青少年の健全育成をを目的として活動しているNPO法人「鎌倉てらこや」、「鎌倉市青少年協会」、「鎌倉市青少年指導員連絡協議会」の3団体が一同に会して鎌倉青少年会館フェスティバル参加するなど、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築が具現化した結果と考えられる。

総体としては、「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、事業費等の経費面からも効果面からも概ね適切な取組を行い、成果が得られたと考えられる。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

平成28年度に改訂をした「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化するよう取り組む。青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施する。

4 平成28年度の目標

引き続き、青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築を図る。困難に直面している若者に対する地域の理解を広め、就労等への支援者を増やすためのセミナー等を開催するなど、「支援体制の充実を図る。

青少年会館が自己肯定感のもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組を図る。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	こども-26	事業名	育成事業					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	青少年指導員欠員地区の担い手の確保											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
近年、60歳を過ぎても引き続き仕事に就いている人が多く、青少年指導員のようなボランティア活動をする人が減少傾向にあるため。	目標値	75	75	75	75	75	75					
	実績値	65	63									
	達成率	86.7%	84.0%									
整理番号	こども-27	事業名	青少年会館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	青少年会館の利用者数の増加											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
青少年の利用者(利用率)数を増やすため。	目標値	52,200	52,300	52,400	52,500	52,600	52,700					
	実績値	52,845	55,041									
	達成率	101.2%	105.2%									

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年会館が青少年の居場所であるように、講座の充実や文化団体の利用促進など地道な努力を続けて欲しい。 ・青少年の育成プランをもとに事業をすすめていることを市民はあまり知らない。市民への広報活動を工夫されたい。 ・市民等との協働をすすめ、青少年会館の活用を図るべきである。 ・中高生の地域での活動が少ない。 ・ボランティア、地域コミュニティの参加を必要がある。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に改訂した「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の重点目標である「青少年の居場所づくり」の一つとして、自己肯定感の持てる居場所づくりを見出すことは健全な育成のために必要であり、平成28年度以降は、自立困難な若者に対しての取組みにも努めていく。 ・青少年指導員を中心とした「子どもキャンプ」や街頭指導員等による「街頭指導・キャンペーン」などの取組みを通して、青少年の健全育成を図った。 ・鎌倉青少年会館フェスティバルでは、青少年の健全育成をを目的として活動しているNPO法人「鎌倉てらこや」、「鎌倉市青少年協会」、「鎌倉市青少年指導員連絡協議会」の3団体が一同に会して参加した。玉縄青少年会館においては、地域との交流やふれあいを図り、広く地域の方々に周知を図るため、「玉縄青少年会館ミニフェスティバル」を開催した。
---	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の推進及び次期プランを策定し、同プランのもと居場所づくりに努力している。
- ・青少年会館の利用者が増加している。
- ・研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。
- ・キャンプ等、小学生を対象とした各事業を実施した。
- ・各中学校区を中心に市内をパトロールした。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	3	↘	0	→		5
効果	○	2	△	1	—	5	—

《課題》

- ・平成28年度に改訂をした「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化することが求められる。
- ・そもそも行政施策における青少年の育成とは何か？官民協働により、研修会や講習会等、様々な良い取組が行われていると思うが、具体的に何を行い青少年にどの様な効果があったのか(期待できたのか)が確認できない。ごく普通の青少年に支援施策が必要か？等の疑問を踏まえ、青少年育成施策として行政が行うべきことは何かを明らかにすることが求められる。
- ・困難に直面している若者に向けて取組を図らなければならないが、ひきこもりなどの青少年は研修会や講習会などには参加しないと思うので、現状の取組(フェスティバルの開催など)が、対象となる若者に対して問題解決に至るものになっているのか、検討が求められる。
- ・自立できない若者、子どもの貧困に対する施策の充実が求められる。
- ・分野としてはもっと広い年齢層をターゲットとした取組を考えているのだろうが、結果、園児、児童のためのものになっていないか。居場所を求めたものが青年ではなく小学生では、目的に対して結果が十分なものになっていないのではないのか。15歳以上だけを専門とした部署で取組を行った方が結果が出る可能性もある。
- ・研修会・講習会の参加者数やひきこもりなどの青少年に対する支援施策が明らかになっていない。
- ・年度の目標、計画についても、これらの何をどうするために、どの様な取組を行うのかが分からない。

《提言》

- ・青少年(乳幼児～30歳未満)全体の支援を総合的に議論すべきであり、結果によっては子育て支援との統合も射程に入れて検討すべきである。
- ・青少年の健全育成を図るとあるが、行政が考える健全とはどういうことか。多様な子どもの姿を受け止められるよう配慮してほしい。
- ・目標とすべきまちの姿は魅力的であるが、それに支障をきたしている青少年を行政として支援することは難しいため、支援を必要としている家庭と協力した事業を実施すべきである。
- ・将来の引きこもりを減少させるために、いじめ対策など初等教育に力を入れるべきである。
- ・学校以外で青少年の居場所づくりのためのプログラムを構築すべきである。学校では活躍出来ず自信を失っている子どもが地域、その他の場で自分を発揮することが多々ある。
- ・青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施すべきである。
- ・子育て支援事業と合併することも考えていくべきである。
- ・「青少年の居場所づくり」、困難に直面する子ども・若者を対象とした「支援体制の充実」、「子ども・若者による社会参画の推進」への対応がわかる指標を設定すべきである。
- ・立派なポリシーを策定しても実効性がなければ意味が無いため、プランに縛られず、本来の意味と実態に合わせた事業を行ってほしい。